



■南島和夫さん(左)、飛永光さん
南島さんは平成28年から北野校区まちづくり振興会会長。「陣屋川をよくする会」の会長としても地域に貢献してきました。飛永さんは平成27年から同振興会事務局長。充実した振興会だより発行の中心となるなど、地域活性化に日々奔走

2 地域ぐるみで守る避難行動要支援者の命

進む取り組みから、地域共生社会実現の視点を考える

みんなで生きる みんなが活きる

豪雨災害のわずか2週間後に訓練

7月5日から降り出した記録的豪雨で、6日には市内ほとんどの地域に避難勧告・指示が出され、最大約1,400人が避難。市内各地に大きな爪痕を残しました。それから約2週間後の7月20日、甚大な被害を受けた北野校区で、避難を想定した図上訓練が開催されました。

同校区は陣屋川の流域にあり、以前から大雨が降ると多くの世帯が床上・床下浸水に。同校区まちづくり振興会の南島和夫会長は、「これまでも訓練をしてきて、地域で声を掛け合う文化は根付いていると思います。でも最近の雨はすごいから、やはり備えないと」と話します。

手助けが必要な人の避難をどうするか

市の地域福祉課と防災対策課の協力の下、各校区が主催する図上訓練の特徴は「避難行動要支援者名簿」を使うことです。災害時に自力や家族だけの避難が難しい人の「命を守る」ために必要な情報を登録したものです。訓練では自治会ごとにこの名簿と地図を広げて避難の動きを確認。名簿に登録された人の家に赤シール、名簿には載っていても手助けが必要だと思う人の家には黄色のシールを貼り付け、その人たちの支援者を決めて避難ルートを考えました。近くに住む要支援者の存在を共有し、日頃から声を掛け合うことが、いざというときに役立ちます。訓練に参加した男性は、水害当時外出先から家に戻れなかった経緯から、「自分一人が意識を持つだけでは、守れない命があると気付きました」と話しました。

訓練では、被災の状況を映した映像を放映。今年の水害で自宅が床上約80cmにも及ぶ浸水被害を受け、過去にも豪雨により2回の床上浸水被害を受けた飛永光さんは、訓練の結びに次のように話しました。「私は3回目の被災。被害の映像を見ると、少し心が折れそうになります。でも、今日流した映像を見て、被災者がすぐ近くにいるということを実感してほしいとも思います」。直近の災害の生々しい記憶や映像が、図上訓練の場に緊張感を与えていました。

◎地域福祉課 (☎0942・30・9174、FAX 0942・30・9752)

この事例はどれ?

地域共生社会の実現のために、13の取り組みの視点があります。掲載した取り組み事例がどれに当たるかを、黄色で示しました。

地域共生社会に向けた取り組み 13の視点

- ①つながりの構築
- ②見守り活動の推進
- ③誰もが集える場の拡充
- ④個別対応が必要な人への支援
- ⑤災害時要支援者への支援
- ⑥権利擁護の推進
- ⑦多機関連携の推進
- ⑧財源確保の推進
- ⑨地域における人材の育成
- ⑩コミュニティなどへの支援
- ⑪事業者などの地域貢献の促進
- ⑫福祉人材の養成と資質の向上
- ⑬福祉の理解を深める取り組み

市ホームページ「くるめ支え合うプラン」へ



詳しくはこちら



日本をイメージした着物(左)は、古来から縁起が良い柄とされる「東ね闘(のし)」の文様。キリバスをイメージした着物は、久留米絨の「本藍」を取り入れた松枝夫妻の共同作品

213の国と地域の着物が完成 故松枝哲哉氏による久留米絨の作品も

東京オリパラに向け、参加する国と地域をイメージした着物を作る「K・I・M・O・N・O・P・R・O・J・E・K・T」が設立して6年。7月24日に213着の着物が完成しました。代表の高倉慶応さんは「オリパラの延期は残念ですが、多くの人に支えられて、完成させることができました。これからがスタート。大阪万博まで頑張ります」と喜びを語りました。7月18日に急逝した重要無形文化財久留米絨技術保持者会の故松枝哲哉氏と松枝小夜子氏の作品も含まれています。



1人ずつスタップから弁当を受け取りました

子どもたちも大喜び 大昌園が焼肉弁当を提供

丸昌焼肉の大昌園が、子ども食堂に弁当を無償提供しました。毎年8月29日の焼肉の日になんでボランティア活動を行っており、今年は市内の子ども食堂8カ所に約400個を配送。8月19日、合川福祉協議会主催合川子ども食堂に80個の弁当が届けられました。代表の江頭渡さんは「今日は想像以上のみんなの喜びに私たちも驚きました。このような取り組みはありがたい」と話しました。子どもたちは弁当を受け取り、笑顔で帰りました。

市政の動き

2学期がスタート

8月21日に市立小・中学校の2学期が始まりました。新型コロナウイルスの影響で夏休みが通常よりも3週間短縮に。朝、南小学校の児童は、「元氣よくあいさつをしながら登校しました。「友だちと会えるのが楽しみ」と笑顔も。始業式は各教室のテレビを使って開催しました。小西一夫校長は「皆さんと2学期を迎えられてうれしいです。9月の運動会に向け頑張りましょう」とモニター越しに話しました。

◎学校教育課 (☎0942・30・9217、FAX 0942・30・9719)



教室のテレビに映し出される校長先生の話を静かに聴きました

市ホームページ「学校教育課」へ詳しくはQRコード

初のドローン研修

8月24日、城島総合文化センターで市職員を対象に初のドローンの活用を学ぶ研修会を実施しました。防災や都市建設などの部署から65人が参加。ドローンはカメラを搭載した無人機で、災害現場や施設点検などでの活用が期待されています。防災や観光を想定した活用事例の紹介や、空撮の実演を行いました。参加した広報戦略課の養父芳博さんは「自然豊かな久留米の空撮映像をYouTubeで紹介するなど、市のプロモーションに活用したい」と話しました。

◎情報政策課 (☎0942・30・9060、FAX 0942・30・9708)



スマホと連動し手元で操作。リアルタイムに画像が届きます



一軒一軒記憶をたどりながらシールを貼ります



水害時の写真を投影し校区内の被害を共有



飛永さんの自宅周辺。大人の腰付近まで冠水しています